

「平成26年台風11号を踏まえた今後の出水対応を検討する会」について

1 背景

平成26年8月の台風11号により、那賀川では戦後最大となる流量を記録し、多くの浸水被害が発生した。

このため、学識者、流域の市町の防災担当者と河川管理者で構成する「平成26年台風11号を踏まえた今後の出水対応を検討する会」を設置し、台風11号による「雨量・河川水位の状況」、「ダム・樋門・排水機場の操作」、「関係機関や住民への情報提供」等について検証を行い、出水対応にかかる課題の抽出とその改善点について意見交換を行う。

2 委員

氏名	専門分野等	所属
長田 健吾	河川工学	阿南工業高等専門学校 准教授
田村 隆雄	森林水文学	徳島大学大学院 准教授
武藤 裕則	河川工学	徳島大学大学院 教授
湯城 豊勝	河川工学	阿南工業高等専門学校 教授
近藤 義昭	行政	阿南市防災対策課長
森下 藤夫	行政	那賀町地域防災課長
赤松 薫	河川管理者	国土交通省那賀川河川事務所長
森 直紀	河川管理者	徳島県河川振興課長

3 開催状況

平成26年8月29日（金） 第1回会議を阿南市で開催

(1) 事務局からの説明

「雨量・河川水位の状況」、「長安口ダム・樋門・排水機場の操作状況」、「関係機関及び住民への情報提供」等について説明

(2) 主な意見

- ① 台風11号による洪水については、台風12号の影響や流域全域に強い雨が降ったこと等を考慮して、さらに分析が必要
 - ② ダム操作については、概ね理解は出来るが、降雨の予測と実績を比較した検証が必要
 - ③ 関係機関や住民への情報提供の内容やその活用状況についての検証が必要
- 等の意見があった。

3 今後のスケジュール

第1回の会議で委員からいただいた意見をもとに、国と連携して、さらに資料整理を行うとともに検証を進め、年内を目途に課題と改善策について取りまとめる予定。